

武部先生との思い出

私が高校2年生であった2022年度における最も大きな出来事といえば、武部先生のご退職だと思います。先生は毎年のように「今年で最後や」とおっしゃっていましたが、新年度の部活始めには必ず「今年もよろしくお願ひします」とご挨拶くださり、いつもの光景が広がっていました。そのため、高2になった際に口にされた「今年で終わり」という言葉も、きっとまた心変わりされ、翌年も続けてくださるのだろうと考えていました。しかし、この年ばかりは、本当にご退職されることが決まりました。

こうして、ご退職が決まったことから、武部先生の花道を飾りたいと、下村先生や部員一同は心から思うようになりました。しかし、先生ご自身は高2への気遣いもあり、ご退職がカジュアルコンサートの主役となることをとても嫌がっておられたように感じます。カジュアルコンサート第2部のメイン曲の指揮をお願いした際も、「定期演奏会は高2の引退の場でもあるのだから、メイン曲は高2の誰かがやるべきだ」というお考えを示されていました。最終的に何度も話し合った結果、第2部のメイン曲『ディズニー・ファンティリュージョン』の指揮を引き受けただけすることとなりました。決定後も、「本当に岩田がやらなくていいのか」と何度も気にかけてくださったことを覚えています。

そんなこんなで迎えた第30回カジュアルコンサートは、高槻現代劇場の改修に伴い、吹田市文化会館（メイシアター）での開催となりました。そのため私は「高槻ではなく吹田での開催となれば、お客様が減ってしまうのではないか」と心配していました。しかし、やはり武部先生のラストイヤーという特別な意味合いは会場の場所などに左右されるものではなく、たくさんのOB・OGの先輩方や先生方にお越しいただき、想像以上の集客となりました。演奏会は下村先生の指揮で幕を開け、部員や武部先生のポップスステージ、下村先生指揮のメインステージ、そして最後に、武部先生の指揮のもと、恒例の「USマーチ」で締めくくられ、大成功で終えることができました。

さて、これまで、定期演奏会について述べてきましたが、武部先生には、演奏会だけでなく、技術的にも精神的に多くの場面で助けていただきました。そのことをここに書き尽くすことは、到底できないので、最後に5年間の先生の印象について少し触れたいと思います。先生の魅力は語り尽くせないほど多くありますが、何よりも部員思いで心優しい方だったと感じています。私が部長になった頃には、よく「～が元気なさそうやけど、大丈夫か」と声をかけてくださいました。当時の吹奏楽部は80人を超える大所帯でしたが、先生は部員一人ひとりの様子を把握し、皆が楽しく過ごせるよう常に気にかけてくださっていました。指揮においても、部員の音を受け入れ、一緒に楽しもうという包容力が感じられました。

このような温かさを持つ先生がご退職される寂しさは、言葉に尽くせませんが、現在も元気に別のお仕事でご活躍されていると伺い、とても安心しております。いち OB として、これからも先生のご健康とさらなるご活躍を心よりお祈り申し上げます。

文責

高槻高校 76 期 吹奏楽部 35 期 岩田有雅